



2015.1.1

# 1月ちとせだより

神戸YMCAちとせ幼稚園

新年を皆さんはどのような気持ちで迎えられたでしょうか。家族や親戚が集まり、「去年のお正月はまだ小さかったのに、今年はこんなに大きくなっている」と、子どもの伸びた身長などから、この1年の1歳の成長を感じたかも知れません。また年齢には、肉体的年齢、社会的年齢、心理的年齢の三つがあると言われています。肉体的年齢は、ある年齢までは身長・体重も普通に食べて生活していれば成長していきます。社会的年齢といわれるものも、6歳になれば小学校へ入学し、20歳になれば好むと好まざるとに関わらず成人として扱われ、それ相応の社会的責任が求められます。しかし、心理的年齢は年月を経ることに応じて単純に成長するものではありません。そして今、年齢に応じた心理的成長が出来ていない子どもや若者、そして大人が引き起こす様々な問題行動が報道されています。ひきこもり、家庭内暴力、摂食障害などだけに留まらず、思春期、青年期に悩みを抱えている若者というならばそれほど不思議ではないかも知れませんが、小学生が生きる喜びを感じられずに、うつ病に陥り自殺にいたる状況もあるという現実には驚かざるを得ません。

心理的な成長が順調になされるためには、それぞれの年齢にふさわしい生活と経験をしなければなりません。幼児期にはお兄ちゃんやお姉ちゃんのしている遊びや振る舞いに興味を持って、自分もしてみたいという欲求があり、自分も真似てやってみようとしています。そして、興味と欲求を満足させるために、同じように出来るまで何度も繰り返してやってみます。そのような経験を通して、自ら探求し工夫するという心理的な成長があるのです。また兄弟げんかや子ども同士のけんかも、相手を怒らせたり、泣かせたり泣かされたりして、人間同士のつきあい方の微妙な加減も身につけていきます。まさしく、子どもが子どもらしく振舞うことが認められてこそ、心理的な成長もあるわけです。しかし、幼児期から与えられる課題をこなし、大人からの評価ばかりを求める生活を続けているのであれば、自らの興味を探求することはなくなり、常に大人からの評価を気にして、自分自身で「これでよし!」という自己確認が出来なくなります。いつも背伸びをさせられ、子どもらしく振舞うことが許されないのであれば、子どもの心は萎縮してしまい、心理的な成長は望めません。

子どもの世界には、子どもたちが自分自身で解決するのにふさわしい課題が与えられ、そのような課題を自らで解決してこそ、子どもの心理的な成長があります。またそうした子どもが大人になって課題に直面した時に、自らの力で問題を解決出来てこそ、大人としての成長があるのでしょうか。

「本物の子ども時代を過ごした者だけが、本物の大人になる。」という言葉を忘れることなく、今年も子どもたちの成長を見守りたいと思います。

年主題 「あふれる愛 - これからもともに - 」

1月主題 「なかまとひびきあって」

聖句 “見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び”  
(詩篇 133-1)